

素顔のご入居者 第四十八回

チャレンジ精神いつまでも

橋本^{はしもと} はつみ様

今回は、自由で型にはまらない人生を歩んできた橋本さんです。現在もゆうゆうの里で充実した毎日をお過ごしです。

【次々と商売を立ち上げて】

私は仕事も趣味も興味を持つたら即実行、迷わず挑戦してきました。女学校を出て初めての勤め先は映画館でした。そこで夫と出会い二十歳で結婚。夫と姑の三人での生活が始まりました。その後、テレビの普及により映画が衰退、私達は映画館を改装してパチンコ店をオープンしました。



自分史「夫婦人生、思い出は宝」を出版した橋本さん

ところが夫が体調を崩し、そ

れを機に麻雀荘に商売替えをしました。そして私も近くに食堂を開きました。娯楽が少ない時代でしたので、映画館、パチンコ店、麻雀荘、食堂、どれも大変な繁盛ぶり。夢中になって楽しむお客さんの顔が私達の喜びであり、励みとなりました。でも、お客さんの要望に応えたいと無理を重ねた結果、夫婦揃って疲労困憊。店を譲り家族で奥浜名湖が望める風光明媚な土地に引っ越すことにしました。新天地は浜松の北部にある細江町。ここでもラーメン店、寿司屋、カラオケスナックを経営。カラオケスナックは18年続けました。

【細江のはっちゃんと呼ばれた時代】

私が一番充実していたと感じるのは細江町に移ってからの60代頃です。特にカラオケスナックを

始めてからは従業員に店を任せ自分達の時間をたっぷり持つことが出来ました。地域の活動に積極的に参加して気の置けない仲間がたくさんできました。ある時、我が町にご当地ソングがあったらいいなと思いつき「細江慕情」「細江讃歌」「いいじゃない」と3曲作詞しました。中でも「いいじゃない」は全日本オリカラ歌謡祭ノミネート賞を受賞しました。これらの曲は今でも細江町の地域活動で使っています。細江町議会委員に立候補して選挙を経験したことも有ります。趣味で社交ダンスや日本舞踊を習い、店のお客さんの前で披露することもありました。また、夫婦で世界80か国を旅し、テレビで観るような未知の地にも行きました。

【名コンビだった夫】

今までで一番辛かった出来事は夫婦二人三脚で58年連れ添った主人に先立たれた事です。私は「楽しいのが一番！」と、お金には無関心なたち、店の経営に関することは主人の担当でした。私



文化祭では、レクリエーションダンスを披露

【今の生き甲斐は自分史】

独りになったことがきっかけでゆうゆうの里に入居を決めました。心機一転何でもやってみようと行事に参加したり、自分でサークルを立ち上げたりと精神的に活動をしました。にぎやかで楽しいことが大好きな私も87歳を迎え、今まで生きてきた足跡を形にしようと思ひ、自分史を2冊の本にまとめました。記憶が薄れあいまいになった思い出をひとつひとつ掘り起こす事は大変ですが、埋もれかけていた昔の自分がまた生き生きと動き出すようでもわくわくするような楽しい時間を過ごしています。